38 テーマ別 和歌を含む古文

出題傾向
●古文には、和歌や俳句を含む文章も多い。
●和歌を含む古文では、五・七・五・七・七の三十一文字という短い文字数の中に表現された詠み手の思いを読み取ろう。

標準問題

1 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。 〈奈良〉

昔、*おとろへたる家に、藤の花うゑたる人ありけり。三月のつごもりに、その日雨そほふるに、人のもとへ折りてたてまつらすとてよめる。

濡れつつぞ*しひて折りつる年の内に春は*いくかもあらじと思へば

（注）おとろへたる家＝落ちぶれた家。　つごもり＝月末。
しひて＝あえて。　いくか＝幾日。

〈「伊勢物語」より〉

(1) ～～線「うゑたる」を現代仮名遣いに直しなさい。 □

(2) 古文中の歌は、途中で一度意味が切れています。その切れ目として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

濡れつつぞ ア しひて折りつる イ 年の内に ウ 春はいくかも エ あらじと思へば □

(3) 古文中の歌が相手に伝えようとしている心情の説明として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア まだ肌寒い春の初め、冷たい雨の中でもけなげに咲く花を見た感動。
イ 貧しい生活の中でも、春の盛りには花を見て楽しもうという風流心。
ウ 残りの人生を考え、あなたに恋をするべきではなかったという後悔。
エ 行く春を惜しみ、それを共に感じられる相手を大切にしたい気持ち。 □

2 次の古文を読んで、後の問いに答えなさい。 〈兵庫〉

鳥羽院の御時、花のさかりに、法勝寺へ*御幸ならんとしけるに、*執行鳥羽院が世を治められていたとき　法勝寺へお出かけなさろうとしたおりに
なりける人、見てとくまゐりけるに、庭の上に、所もなく花散りしきたりけるを、「①あさましき事なり。それを知って急いで寺に参上したところ　ただ今御幸のならんずるに、今まで庭を掃かせざりける。」と叱り、ⓐ腹立ちて、*公文の従儀師を召して、「今まで今すぐお出かけがあろうというのに　いかに掃除をばせざりけるぞ。②ふしぎなり。」とⓑ言ひければ、ついひどうして　しなかったのだ　さっと
ざまづきて、

③散るもうし散りしく庭もはかまうし花に物思ふ春のとのもり
つらい　掃くのもつらい　もの思いをする

〈藤原信実「今物語」より〉

（注）御幸＝ここでは、院のお出かけのこと。
執行なりける人＝寺の運営に関わる責任者。
公文の従儀師＝寺の僧に対して、作法にかなった立ち居振る舞いを指導する人物の補佐役。
とのもり＝庭の掃除などに従事する役人。

(1) 線「まゐり」を現代仮名遣いに直しなさい。

(2) 線①「あさましき事なり。」とありますが、これについて説明した次の文の［A］に当てはまる言葉を後から一つ選び、記号で答えなさい。また、［B］に当てはまる言葉を三字で書きなさい。

▪「執行なりける人」が、鳥羽院のお出かけがあると知って、［A］を気にして急いで寺に参上したところ、庭一面に［B］もないほど花が散ったままの状態であることに驚きあきれている。

ア　僧たちの自分への評価
イ　お迎えの準備の状況
ウ　御幸に関する自分の知識不足
エ　公文の従儀師の評判

A［　　］　B［　　］

(3) 線ⓐ「腹立ちて」、ⓑ「言ひければ」の主語の組み合わせとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　ⓐ　鳥羽院　　ⓑ　鳥羽院
イ　ⓐ　鳥羽院　　ⓑ　公文の従儀師
ウ　ⓐ　執行なりける人　ⓑ　公文の従儀師
エ　ⓐ　執行なりける人　ⓑ　執行なりける人

［　　］

(4) 線②「ふしぎなり。」のここでの意味として適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　気がかりなことだ　　イ　おもしろいことだ
ウ　非常識なことだ　　エ　当然のことだ

［　　］

(5) 線③の和歌について、次の各問いに答えなさい。

1　この和歌は、誰が誰に詠んだものですか。適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　とのもりが鳥羽院に
イ　公文の従儀師が執行なりける人に
ウ　公文の従儀師が鳥羽院に
エ　執行なりける人がとのもりに

［　　］

2　この和歌に込められた気持ちを述べたものとして最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア　桜の花の散ることはあまりにつらいが、散った花を惜しんで掃かずにいると叱られてもっとつらいので、鳥羽院がいらっしゃるまでに庭を掃き清めてしまおうと思うのですよ。
イ　桜の花が散るのがつらいうえに、散った花を掃かずにいてますます庭が汚れるのはもっとつらいので、あなたに言われるまでもなく鳥羽院がいらっしゃるまでに庭を掃こうと思っていたのですよ。
ウ　桜の花が散ることはもちろんつらいが、散り敷いた花を掃き清める手間がわずらわしくてつらいので、鳥羽院がいらっしゃるけれども、庭を掃かずにおいているのですよ。
エ　桜の花が散ることもつらいし、せっかく美しく散り敷いた花を掃き清めてしまうのも残念でつらいので、花見にいらっしゃる鳥羽院のためにも庭を掃かずにおいているのですよ。

［　　］

アドバイス　和歌や俳句には、作者の感動や物語のクライマックスとなる心情など、文章の中心となる心情が盛り込まれていることが多い。どのような出来事があって、歌や句を詠むことになったのかを確認して、心情を読み取ろう。